

農業は山形県の基盤産業であり、生産から加工、流通、販売、さらには観光との連携など、幅広く地域経済を活性化する原動力となっています。

本県には、「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」などの良食味の米、初夏の味覚である「佐藤錦」「紅秀峰」「やまがた紅王」などのさくらんぼや西洋なし「ラ・フランス」を代表とする果樹、季節を届けるすいかやメロン、えだまめなどの野菜、暮らしを彩るバラや「啓翁桜」、アルストロメリアなどの花き、「総称山形牛」や銘柄豚、「やまがた地鶏」などの畜産物、素材の特性を引き出し付加価値を高めた農産加工品等々、四季折々のおいしさや華やかさを兼ね備えた農産物が数多くあります。

これらは、山形県の豊かな自然と、先人の英知とたゆまぬ努力で築き上げてきた高い農業技術に加え、新品種や新技術の開発・普及とブランド化に、生産者の皆様、市町村、JAグループ等関係機関が一体となってオール山形で取り組んできたことによるものです。

一方で、農業従事者の減少や高齢化による労力不足、地球温暖化に起因する気温のトレンド上昇と振れ幅の増大、燃油や肥料、飼料等資材価格の高騰など、農業を取り巻く情勢は時々刻々と変化しております。また、円安の進行や物価高騰、賃金の上昇など、約30年間続いたデフレの脱却まであと一歩のところまできており、社会・経済情勢も長い時間軸の中で大きく変わりつつあります。

このような中、農業者の所得向上と経営安定、そして本県農業の持続的な発展を図っていくためには、本県の優位性を発揮し山形ブランドを形成する競争力の高い新品種の育成や社会・経済環境の変化に対応し新たな価値を創出する技術、地球温暖化等自然環境の変化に対応しSDGsに寄与する技術、ICT等先端技術を活用した省力的・効率的な技術を開発し、普及拡大していくことが重要であると考えております。

当センターでは、多様な担い手が将来にわたって「夢」と「希望」を持ち続けて農業に取り組むことができるよう、農業・農村の現場ニーズに対応するとともに、生産現場へ提案する技術開発にも積極的に取り組み、得られた成果の速やかな技術移転に努めてまいりますので、今後とも関係者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

山形県農業総合研究センター
所長 富 樫 政 博

